

6-5

意識改革

個別ケア

介護保険の中の忘れ物…

よろこび・えがお・げんき…生きるとは？

特別養護老人ホーム ニューフジホーム

発表者：介護員 市川 勝弘	共同研究者：片岡由佳、宇佐見幸太、岡本泰夫
所在地：東京都昭島市中神町1260	共同研究者：佐藤俊則、土田和子、長山高行
TEL：042-544-5291	E-mail：newfujj@douen.jp
FAX：042-546-1729	URL：http://d-nfh.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	開設から28年をむかえる施設ですが、最近の施設では忘れかけている行事・レクリエーションに力を入れるなど、温故知新を目指しております。
----------------------------	--

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 介護保険前の楽しい思い出話しを利用者から聞いた新人職員から「何故今は実施出来ないのか」という疑問の声があった。○ 身体介護中心のケアだけでは、利用者と楽しめる機会も少なく、職員のモチベーションを維持することが難しい。○ 利用者の個性を発揮できる場を提供したい。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 介護保険導入をきっかけに、経営上の問題などで削減した行事を復活させた。○ 利用者・家族・ボランティア・実習生・職員、全員で楽しめる余暇活動の幅を広げた。 ①グループでのレクリエーション、小グループでの趣味活動の充実 ②外出機会の拡大、小グループでの外出実施 ③お楽しみ企画委員会の発足 ④誕生会の内容を見直し、参加者全員が楽しめる企画の実施 ⑤喫茶メニューの充実と雰囲気づくり ⑥アンケートの実施 ⑦逆デイサービスの導入○ インターネット通信による、麻雀・囲碁を利用者が操作できるように環境を整えた。	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 利用者が生きる喜びや希望を持ち、自然と笑顔を引き出す事ができた。○ 外出や外注食を通して、利用者の普段見られない状況を見ることができ「また行きたい」「とても良かった幸せ」と喜びの声が聞かれた。○ 利用者を中心に、家族・職員・ボランティア・実習生・全員で楽しめる環境を作ったことにより、家族などから高い評価を受けた。さらに、ボランティアの定着化、職員のモチベーション向上、実習生の入職へと繋がった。○ 職員同士のチームワークの強化が図られた。○ インターネットでの、麻雀・囲碁に生きがいを取り戻した要介護度の高い利用者がいた。 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 日々の生活の中で忘れてしまいがちな「生きる」、「生きる」とはということなのか？というテーマを今後も模索し続ける。○ 行事への家族参加をきっかけに家族との絆を深める。○ 外出をすることで地域との関係性をさらに深めたい。
--	--

【メモ欄】
